

## メッセージアウトライン

### ヤコブの手紙 3:1~12「舌を制する」

[1]「私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです」

教師とはユダヤ教で言えばラビ、律法の先生、権威者であるが、初代教会においては神のみことば、福音を人々に宣べ伝え、教える務めをする者のこと。  
→ I コリント 12:28

エペソ 4:11 ではこの教師のことを牧師とも呼んでいる。使徒と預言者は一つの教会だけではなく、全教会に対して働く役割があった。→使徒ペテロやヨハネ等。これに対して教師は一つの教会にとどまって教会員一人一人のために働いた。それは彼らを聖徒として整え、教え、導くという重要な役割であった。しかし、ヤコブはここで「多くの者が教師になってはいけません」と警告する。なぜか。それは光栄で重要な役割であるが、それとともに重い責任がともなうからである。例として船の航海士が誤った進路に船を進ませてしまうならば、船は座礁し沈没してしまうかもしれない。教会の教師はそれに勝るとも劣らない重い責任がある。教師はことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも純潔にも信者の模範にならなければならない。→ I テモテ 4:12

それゆえ、教師が模範どころか人の輦蹙を買ったり、つまずきとなるようなことをするならば、彼は格別に厳しいさばきを神より受けることになるのである。これは厳粛な事実である。

[2]「私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗しない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です」

「私たちはみな」とは教会の教師、牧師だけに限らず、すべての人のことを言っている。すべての人がその人生において多くの点で失敗する。そしてその失敗の多くは、口から出ることばから始まる。それでヤコブは、もしことばで失敗しない人がいるならその人はからだ全体もりっぱに制御できる完全な人ですと言うのである。

[3-4]「馬を御するために、くつわをその口かけると、馬のからだ全体を引き回すことができます。また、船を見なさい。あのように大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小さなかじによって、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです」

ここでは口を制御することについて二つの例が語られている。①馬を御するためのくつわ ②船のかじ。それぞれ小さな部分であるが、それをうまく用いることによって馬も船も思いどおりに動かすことができる。ここでは馬も船も私たちの人生を表しているといつてよい。

[5-6]「同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るのです。ご覧なさい。あのように小さな火があのように大きい森を燃やします。舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます」

ここでは舌は火にたとえられている。ごく小さな火が山火事を起こす。それ

は不義の世界、すべての悪の性質を代表する。舌を通してあらゆる悪しきものが表現されてくる。またそれはからだ全体を汚し、人生の車輪と言われている私たちの人生全体を焼いてしまうことができる。

そして舌自体もゲヘナつまり地獄の火によって焼かれる。すなわち神の刑罰を受けることにな

るのである。

[7-8]「どのような種類の獣も鳥も、はうものも海の生き物も、人類によって制せられるし、すでに制せられています。しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています」

創世記 1:28 にあるように人間はすべてのものを制し、支配してきた。しかし、その人間のからだのごく小さな一部分である舌を制御することができないのである。そしてそれはクリスチャンにおいても例外ではない。

[9-10]「私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません」

クリスチャンは礼拝で、祈禱会で、また個人的に静まって神を賛美する。ところが、その同じ舌で神にかたどって造られた人間を傷つけ、のろうのである。マタイ 26:35 以下で、主イエスがあのゲッセマネの園でユダヤ人たちに捕らえられる直前、ペテロは「たとい、ごいっしょに死ななければならぬとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません」と言い、他の弟子たちもそれに同調した。しかし、それから数時間の後にペテロはイエスなど知らないとして否定し、のろいをかけてまで誓ったのであった。→26:74

私たちも、ある時は神を賛美し、ある時は人の徳を落とし、自分の徳を落とす愚かなことを語る。ヤコブが言うようにこんなことはあってはならないことである。

[11-12]「泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるでしょうか。私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりするようなことは、できることでしょうか。塩水が甘い水を出すこともできないことです」

しかし現実には、私たちは自分の口、舌においてそのようなことをしているのである。では私たちはどうしたらよいのか。あきらめるべきか。そうではない。私たちはあくまでも信仰と行いの一致を目指していかなければならない。私たちの生まれつきの肉の思いではなく、私たち信仰者に与えられている御霊、聖霊によって私たちの心をコントロールしていただいて良い倉から良いことばを取り出して語るような者になっていく必要がある。→マタイ 12:34~35

私たちは苦々しいねたみや高慢の思いなどから語るのではなく、私たちの救い主であるイエス・キリストにより頼み、御霊に満たされて、親切で柔和なことば、よく自制し、塩味のきいたことばを口から出さなければならない。→ガラテヤ 5:16~26、コロサイ 4:6